

## 発刊に寄せて

今年度も登米市租税教育推進協議会並びに租税教育推進協力者の皆様のご尽力により、ここに「令和元年度租税教育指導事例集」が刊行されますことをたいへん喜ばしく思います。

税金は、年金・医療などの社会保障・福祉や、水道、道路などの社会資本整備、教育、警察、防衛といった公的サービスを運営するための費用を賄うものです。国の運営の根幹を支える制度であり、私たちが納めた税金は、「国民の健康で豊かな生活」を実現するために、国や地方公共団体が行う活動の財源となります。みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくために必要な制度であることを、広く理解していくことが大切であると考えます。

今年度は、市内ほとんどの小・中学校において租税教室が開催され、税金についてのより専門的な学習が進められました。小・中学校段階で、税の仕組みを学び、興味をもち、見聞を深めて理解していくことは、誠に有意義であり、大事な取組と考えます。

さらに本書は、授業中での租税教育指導の進め方について、研究及び実践を行い、具体的に様々な取組を紹介しており、今回は、小学校6校、中学校2校の実践事例が掲載されています。いずれの学校でも児童生徒を対象に分かりやすく「税」を理解させるため、各種の工夫を凝らして取り組んでおり、今後の租税教育活動に大変参考になる内容となっています。極めて有効な実践事例であると認識しており、その効果が大きいと期待されるものです。各小・中学校におかれましては、ここに紹介されています租税教育実践事例を、ぜひ参考にさせていただきたいと思っております。

結びに、各小・中学校の授業で、租税教育の推進にご指導いただいた先生方のご努力とご支援、並びに本事例集の取りまとめに当たられました佐沼税務署の皆様のご尽力に心から感謝を申し上げ、発刊に際してのあいさつといたします。

令和2年3月

登米市租税教育推進協議会会長  
登米市教育委員会 教育長

**高橋 富男**